
恋人記念日

和葉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

恋人記念日

【Nコード】

N1094A

【作者名】

和葉

【あらすじ】

中学生の恋の物語。こんな思いありませんか？

私は普通の都立高校に通う高校二年生の長岡 春香。

私と彼の出会いはもう四年前のことだ。

私はあまり目立たない性格なのでめったに笑わないし、めったに外に出ない。

私は、私に自信が持てなかったからだ。

もう桜が舞う季節。私の一番好きな季節。この春にある一つの物語りが生まれた。

恋人記念日

一週間前の出来事だった。

「あーあ。雨だよ。どうしよう。」

その日はとてもひどい雨の音が響いていた。

「家出るときは、ふってなかったのに・・・。」

私はしばらく雨宿りすることにした。そこに

「おーい！長岡！！」

それは、ただ、のクラスメートの、渡辺 剣^{つるぎ}だった。

「ああ。渡辺君。」

「お前どうしたんだ？」

「ううん。傘忘れちゃって……。」

「そっか。俺のに入れてやるよ。」

「えっ。でも……。」

「いいから、いいから!! 早く早く!!」

そういうと彼は私の手をつかんで傘に入れるとそのまま歩き出した。

「あ、渡辺君! この傘、穴開いてるよっ。」

「やべっ!!」

そう慌てたあなたの顔を見て笑った。

「お前って笑うとかかわいいな。」

「えっ?!」

そういつてくれたあなたの顔、ことば、今も心に残る大切な思い出。

このときからだった。彼の見方が変わったのは。私の初恋だった。

〜今〜

穴の開いた傘を買うために、私たちは近くのデパートに入った。

「ごめんな。俺のために……。」

「いいんだ。そのかわり、私の買い物にも付き合って。」

「ああぜんぜん構わないぜ。」

私の買い物にもお構いなしで付き合ってくれる彼。

きつとみんなにもこう笑顔を振りまく人だと思った。

買い物なんて嘘。あなたと少しでもそばに居たかった。いろんな事
しゃべって、いろんな事知

って、いろんな事知ってほしかったから。そんな中、私は一セット
のレターセットを買った。

彼も一緒に買った。その後彼が

「明日、学校休みだしまだ4時だから、これからどっか遊びに行か
ない？」

不意打ちだった。

私の親は二人とも弁護士。最近は真夜中に帰って来ることが多い。

お兄ちゃんは、夜間のアルバイトだから、家にはいない。ちよつと

だけならいいと思った。

「うん。いいよ」

雨はやみ、すっかり青空がもどっていた。

わたしたちがまず行った所、それは近くのゲームセンターだった。

彼の推薦で行ってみた。

「長岡はさ、こんなところ来た事ないだろ。」

「うん。でも面白そう。」

「そうか！よかった。実は俺も、ここ来たのはじめてなんだ。前から興味あってさ。」

「私も、特にプリクラとか・・・。」

私は笑いながら想像を膨らませた。

「じゃあ撮ってみるか。」

「うん。」

五台ばかりのプリクラの機械。全部に人が入っていた。カーテンが閉まっているが、そこか

らかすかに見えた。ちょっと大人の人が、KISSをしながら、撮っているのだった。

彼もそれを見たらしい。

「ありえないな。」

「でもちよつとうらやましいかも……。はっ!！」

私はつい本音をもらしてしまった。すると彼が、

「おっ、俺トイレいつてくるっ。」

何か慌てた彼。どうしたのかと思ったけれど、そのときはあまり気に留めなかった。

私はその場で待っていた。あの時もらってしまった言葉が、とても気にかかっていた。

彼に不快感を与えてしまったかかもしれない。

私はそのとき、いい方法を思い出した。いそいでかばんの中のペンケースとさつき

買ったレターセットを取り出した。そこにはただ四文字の言葉

『すきだよ。』

初めて書いた LOVEレター だった。

ようやく彼が帰ってきた。

「ごめんな。あつ、この機械あいたみたいだぜっ！さあ、撮ろう、

撮ろう。」

あきらかにさっきと様子が違った。しかしこれも私は気に留めなかった。

一枚目。

さまざまなポーズをとった。しかしどれも彼は赤い顔をしていた。

また機械が人でいっぱいになった。彼が言った。

「俺のこと、剣^{つるぎ}って呼んで良いぞ。」

男の人を呼び捨てで呼ぶのなんて初めてだった。

「私も、春香でいいよ。」

男の人に呼び捨てで呼ばれるのも初めてだった。

すると機械があいた。その中に入ると彼はなかなか、お金を入れな
い。すると彼が、

「これ、よんでみて（／＼／＼）」

彼の顔が真っ赤になっていた。そこにはさっき買ったばかりのレターセットがあった。

ゆっくり中をあけた。そこには

『すきです。』

私があなたにあげたい手紙と同じだった。

「俺と付き合ってくれないか？」

私も彼に手紙を渡したすると彼は、

「コレって両思い？」

「みたいだね。」

「嘘じゃないよな?!」

「うん！」

私は今までにない笑顔で彼に笑って見せた。同時に涙がこぼれた。

彼がようやくお金を入れた。いっぱいだったが残り2ショット。

彼が少し近くに寄ってきた。するといきなり私をお姫様抱っこしたのである。

「カッシャッ」

シャッター音が響いた。そのまま撮られてしまった。

後一枚。

「それじゃあ最後の一枚は・・・姫のお望みどうりKISSプリでっ」

「ちゅっ」

「カッシャッ」

びっくりした。しかし嬉しかった。

今も彼とは付き合っている。同じ高校に通っている。しかし私は遙かに変わった。

自分に自信を持つことができた。彼のおかげだった。

その時印刷されたのはたった2ショットプリラだった。その二枚には同じ文字が書かれていた。

(後書き)

こんにちは。和葉です。

この小説気に入っていただけでしたか？できれば感想をください。
とても励みになります。

ここまで読んでくださった方、本当にありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1094a/>

恋人記念日

2010年11月10日02時14分発行